株式会社オプトラン

2020 年 12 月期第 3 四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）QA サマリー

Q1：北米スマートフォンメーカーの売上計上は、予定とおり行われるのか？

A1：北米スマートフォンメーカーの検収条件は他社に比べて厳しい。また、出荷装置台数も多いため、一部が来年度の売上計上になる可能性はあるが、下期にある程度売上計上できるのではないか。

Q2：第 3 四半期にスマホ向け受注が鈍いと思うが、競合がシェアを奪っていることなどはないのか？

A2：スマートフォン市場では、2017 年、2018 年に成膜装置の設備投資が大きくあったため、過剰設備の部分はある。顧客は、汎用性が高いものは、ある程度、過去に購入した設備を転用している。

ただし、弊社で一番重要なのは、新機能等向けの新型装置の受注が取れるかどうかである。足元、スマートフォンの売れ行きが世界経済の動向でブレーキがかかっているが、北米スマートフォンメーカーも含めて、ハイエンドスマートフォンの開発意欲は強い。

Q3：監視カメラ向けの受注は動いていないと思うが？

A3：監視カメラについては回復していない状態が続いている。ただし、監視カメラは技術開発途上ではある。IoT の進展に伴って技術のレベルアップのニーズはあるのではないか。

Q4：上海、台湾工場の稼働率はどうか？

A4：第 3 四半期の稼働率は下がっていたが、足元では、顧客の短納期の要求もあり、稼働率は上がっている。

Q5：第 3 四半期の粗利率は低いのではないか？

A5：2020 年度の計画は 40%であるので、若干低い。売上の装置構成によっては四半期ごとにアップダウンはある。第 2 四半期と比べて、スパッタ装置の原価率は改善しているが、売上に占めるスパッタ装置比率が減少したので、大幅に改善はしなかった。

Q6：売上未達のリスクは？

A6：当社の期待どおりに検収が上がれば計画達成は可能である。ただし、新型装置は検収に時間がかかることがある。

Q7：来年度の受注の見通しは？

A7：2020 年において、開発は当初の計画どおり進んでおり、それが来年以降に受注に繋がることや、既に発表している新型装置の受注に期待している。

Q8：ALD 装置はスマートフォンのどの様な分野に使われるか？

A8：カメラモジュールの広角レンズや加飾関係、ミニ LED バックライト、AR/VR 等に利用される可能性はある。

Q9：計画の利益達成の見通しは？

A9：まず、当社計画の売上達成である。現在、売上計上のため注力しているが、ハードルは低くない。

また、計画の販管費 54 億円の達成である。当社グループでは、2020 年 9 月に業績予想を修正した際に、厳密に販管費支出の計画を立てており、細かくチェックをしている。

以上